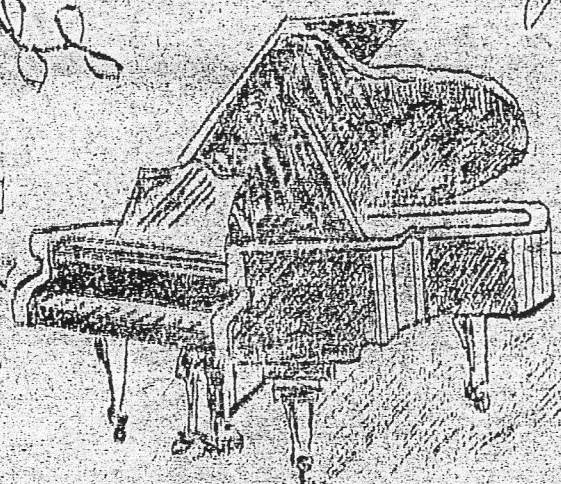

Träume

1949.12.23.(Fri)

第一回レコードコンサート
プログラム

矢吹 中学校 音樂部

プログラム

[illegible]にあたつて……………三年 樋山
音楽を聴く心……………大瀧先生
楽曲解説……………Q氏

☆曲目

- × ドロイノライ…（コンサート ティーマ）…シューマン曲
- × G線上のアリア……………バッハ曲
- × 二つのトルコ行進曲
  - a. モーツアルト曲
  - b. ベートーヴェン曲
- × 歌曲“冬の旅”より……………シューベルト曲 ミューラー詩
  - a. さらばーとー（No.1）
  - b. 菩提樹（No.5）
  - c. 春の夢（No.11）
  - d 辻音樂師（No.24）

バリトンソロ ゲルハルト ヒュッシュ
ピアノ伴奏 ハンス、ウド ミューラー

☆休憩 ══════ 10分間

- × 小犬のワルツ……………ショパン曲
- × 未完成交響曲……………シューベルト曲
- × アヴェ・マリア……………シューベルト曲
- × 蚤の歌……………ムーソルグスキー曲
- ☆ 交響曲第五番“運命”……………ベートーヴェン

Ⅳ 閉会の言葉……………二年 大沼昌子

解説抄

……（紙数の関係で極く簡単にします）

※〝トロイメライ〟——これはあまりにも有名な独逸の作曲家であるロバート・シューマン（1810〜1856）のピアノの小曲集〝子供の情景〟の中の一曲で「夢」と呼ばれ広く世界の人々に愛されてゐる曲です。シューマンは若いときにピアニストを志してあまりに激しい練習の為に指を痛めて了ひピアニストとして立つことが出来なくなり、それからは作曲を勉強して数多くの美しい作品（ピアノに、室内楽に、協奏曲に）を残し、晩年はあまりに過度の疲労で脳を悪くし、ライン河に飛び込んで自殺をして了いました。尚シューマンの作品の中で〝流浪の民〟とか〝動物の謝肉祭〟など最もよく知られてゐます。

×この曲コンサートのティーマとすことに致します。

※〝二つのトルコ行進曲〟胸に金モール、帽子に鳥の毛をつけ、肩にはけん章をフサフサさせた童話に出て来る様なトルコの兵隊の行進を描いた曲です。モーツァルトの感覚とベートーヴェンの感覚とでそれぞれ違った表現をし、その人その人の個性がよく現はれてゐます。よく注意して聴きませう。

※〝歌曲冬の旅〟とシューベルトについて……私達がシューベルトの名をきくときなんといふ親しさを感じることでせう。ドイツの生んだ天才（と言ふより他にない）シューベルト。ふ味のある顔に小さな眼鏡をかけ（彼は眠るときも外さなかったと言はれてゐる）その奥に子供の様な無邪気でやさしい瞳を輝かせて……〝この曲は誰の曲だい？なかなかいゝ曲ぢゃないか〟と自分の作曲したのを忘れて友達に言ったシューベルト。その位むに多作で即興的（興のおもむくまゝに）に次から次と美しい曲を泉の様にこんこんと流れ出した歌曲の王シューベルト……は生きてゐる間は認められずいつも生活は貧しかったのでした。けれど芸術の中に生きるシューベルトにとってはそんなことは問題ではなく、たゞひたすらに美の神の命ずるまゝに作曲をして三十一才といふ若さで昇天して了いました。

歌曲集〝冬の旅〟は友達（シューベルト組と呼ばれてゐる非常に仲の良い画家や歌手や詩人）のミューラーと言ふ人の手によって書かかれた詩集で全曲で二十四曲あります。それは若者が心に痛手をうけて、淋しい人生の冬の旅に故郷の町を旅立って行くところから始まり、いろいろ楽しかった

—〈裏へ〉—

想いは絶やさず夢見、亦あるときは
淋しげに苦しげに声を出して泣き
自殺しようとさへしたり、自分で
自分を勇気づけたりしながら
最後には望みのなくなって
了った自分の友達として辻に
立つ老いた楽師に呼び
かける「おい！
不思議な人よ！
私と一緒に旅しようでは
ないか！私の歌にその悲しい伴奏を
つけてくれないか！」と結んであるのです。

シューベルトのこの詩に対して付けられたメロディーが又素晴らしく、その流れは他に比較がなく、あるときは若者と一緒に胸を躍らし、そして楽しかった頃の追憶にふけり、聴く人の心にジーンと滲みとおらずにはおきません……それはシューベルトの多感、そしてシューベルト自身の淋しさ、悲しさであったから……

ここにあげた外りの曲は其の中でも特に印象の深い、また歌曲（シューベルトの作風から見た）としてのメロディー（音の流れ）の美しいのを選んでみました。尚これ以外の曲もどれもこれも劣らない程の美しい曲で聴けば聴く程心にしみこむ様な曲ですがいかがで、是非チャンスをつかまえて全曲を通して聴き度く思っています。

ベートーヴェンの
交響曲No.5
運命

英雄ベートーヴェンについて論議せば何時間あっても足りないのですが今の場合皆さんは言葉を離れた、又説明などよりも全神経を耳にあつめて偉大な努力の人ベートーヴェンの魂からほとばしり出る叫びを直接各自の心に刻みつけたいと思います。

——〈Q 記す〉